

令和6年度 亀山市立野登小学校 研究デザイン

教育大綱 基本方針―Ⅰ

未来を拓く子どもたちの豊かな学びの実現

亀山市教育関係職員 研修基本方針

「一人ひとりの児童・生徒が個性を生かしながら なかまとともに主体的に学ぶために」

- (1) すべての子どもの学ぶ意欲を高め、社会で生きてはたらく「確かな学力」を育てる教育活動をすすめる。
- (2) 教師の授業力向上を追求するとともに、系統的な指導をすすめる。
- (3) 人権を尊重し、なかまとともに、豊かな心と身体をはぐくみ、自己肯定感・自己有用感を高める教育活動をすすめる。
- (4) 地域の人材や活動を活用し、地域とともに特色ある教育活動をすすめる。

学校教育目標 めざす学校像

「地域とともに 仲間とともに 生き生きと活動する子の育成」

- ・地域とつながり、活力あふれる学校
- ・一人ひとりの子どもが生き生きと学び活動する学校

めざす子ども像

- 【仲間とともに高め合える子】
人の話をよく聞き、思いや考えを自分の言葉で表現する子
- 【すすんで学ぶ子】
主体的に意欲をもって学ぶ子
- 【自他を大切にする子】
互いの違いを認め、自他の命・人権を大切にする子

めざす教師像

- ・「わかって楽しい授業」づくりに努める教職員
- ・子どもの声や思いを大切にする教職員
- ・地域や家庭と協働・連携し、信頼関係を築いていこうとする職員

重点目標

- ① 地域や家庭と連携し、地域資源を活かした教育活動を充実し、安心安全な学校づくりをすすめる。
- ② 確かな学力の定着を図り、個を大切にした主体的で対話的な授業づくりをすすめる。
- ③ 互いの人権を尊重し、仲間とともにつながり合い、高め合う教育活動をすすめる。
- ④ 教職員の働きやすい環境づくり、ワーク・ライフ・バランスの確保をすすめる。

野登小の特色ある取組 ～ふるさと学習～

- ☆ ののぼりの自然から学ぼう
・里山探検 ・安楽川の生き物 ・ミツマタを使った卒業証書作り
- ☆ ののぼりの文化や歴史から学ぼう
・古墳 ・不動院 ・宗徳寺 ・野登寺
- ☆ ののぼりの達人から学ぼう
・水墨画 ・お米作り ・お茶作り



中部中学校区研究主題

主体的な学びと対話的な活動のある授業づくり～自ら学びにむかい なかまとともに高め合う子の育成～

野登小学校研究主題

進んで表現し、学びを高め合う子の育成～「主体的・対話的」な授業づくりを通して～

Ⅰ 研究主題設定の理由

① 児童の実態

本校は、明るく落ち着いて学校生活を過ごし、学校行事や学習活動に真面目に取り組むことのできる児童が多い。また、小規模校でありクラス替えもないため、友だちの得意なこと・苦手なことをよく理解しており、苦手なことを受け入れたり互いに協力したりする姿がある。その一方、失敗や間違いが目立たないように周りの目を気にしながら行動したり、授業中や集会で自分の考えを発表することに消極的になったりする姿も見られる。これまで共に過ごしてきた時間が長いことから、互いのことを理解し合っている反面、人間関係の固定化や決めつけた見方があることで、相手によって言葉がけや態度がきつくなることもある。

学力については、叙述の読み取りや計算などの基礎的な学力が身についている児童が多い。令和5年度の全国学力・学習状況調査では、国語が＋10ポイント、算数が＋8ポイントと全国平均を大きく上回った。その一方で、学習内容をおおむね理解できていても、複数の資料から必要な情報を選択し活用する力や、考えたことを分かりやすく表現する力が十分でなく、言葉や図、数字等を使って自分の考えを説明することに課題がある。また、算数の文章問題では、場面を具体的に想像することができず、安易な考えで問題を解いてしまう姿が見られる。

② 昨年度までの取り組みの成果と課題

昨年度は、研究主題を「進んで表現し、高め合う子の育成～『主体的・対話的』な授業づくりを通して～」に、研究領域を道徳科に設定した。児童が素直な意見や自分の考えを進んで表現できるように、主体的・対話的な授業づくりに重点を置いて研究に取り組んだ。その結果、考え議論する授業の展開方法や教材研究の方法を学び、対話を意識した授業づくりに少しずつ改善することができた。しかし、依然として、進んで素直な思いを表現できる児童や、対話を通じて学びを深め合うことのできる児童が少ないのが現状である。

そこで、本年度も引き続き、主体的・対話的な授業づくりを通して、自分の考えを進んで表現する力や友だちとの適切な関わりをもつためのコミュニケーション力の向上を目指して取り組みを進めていきたい。

2 研究主題について

「進んで表現」とは、失敗や間違いを恐れずに、自分の意志をもって自分の思いや考えを伝えることとする。そのために、ペアで説明する場面やグループで話し合う場面を大切にし、自分の考えを伝えるとともに、児童の興味関心に応じた題材を用いて授業を進めていく。

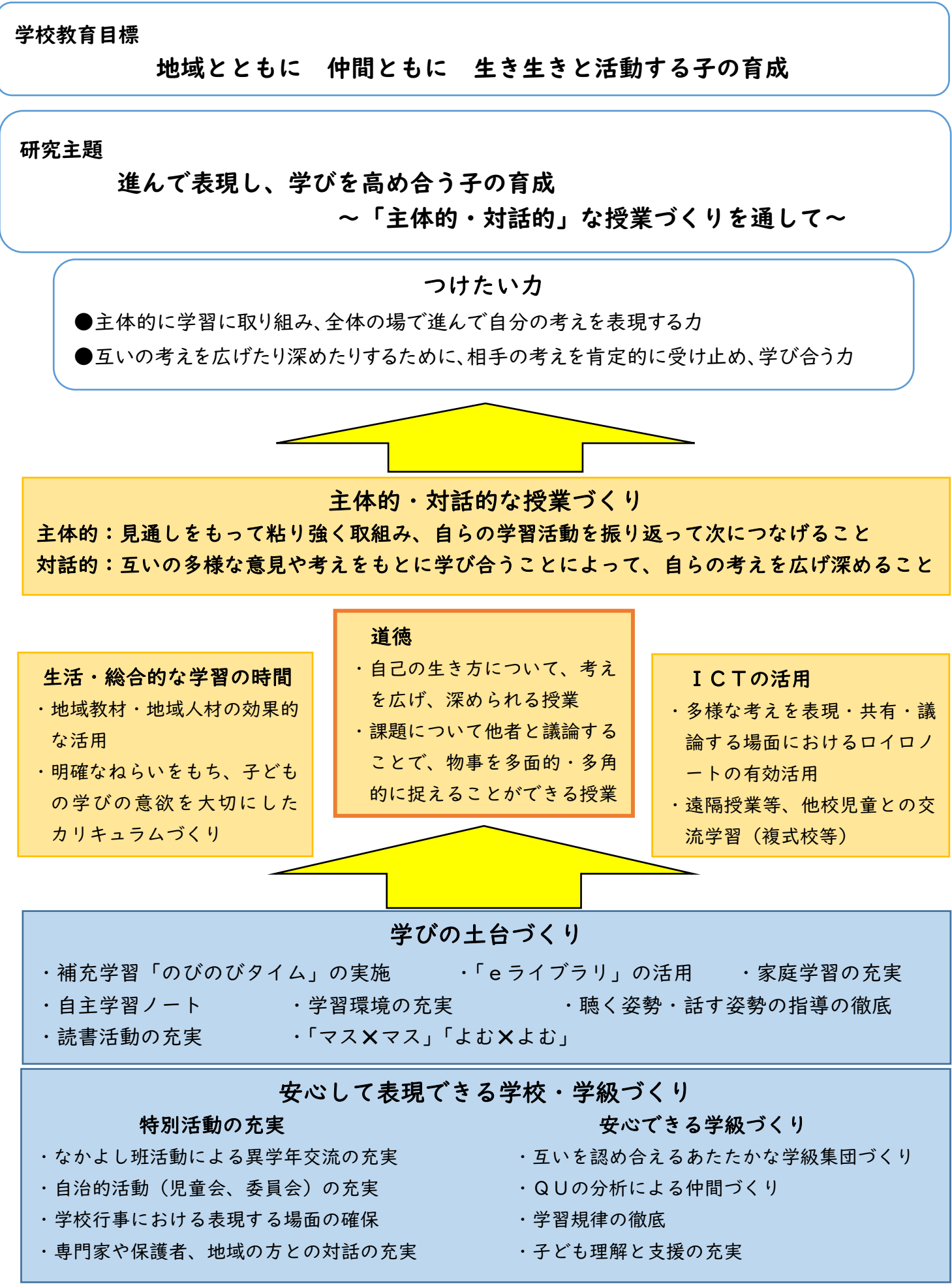
「学びを高め合う」とは子ども同士が互いの考えや思いを伝え合い、認め合う中で、学習意欲を高めたり、互いの考えや知識を相互に関連付けてより深く理解したり、新しい考えを創造したりすることとする。

相手の考えを受け止め、自分の素直な考えを表現できるよう、学級づくりと授業づくりの両輪で進めていく。主体的・対話的な授業づくりを通して、課題について子どもたちが生き生きと意見を交わしながら、新たな見方で物事を捉えたり、互いの考えの共通点・相違点を見出したりしながら、子どもたちが自らの考えを広げ、深めていく姿を目指していきたい。

3 研究領域

特別の教科 道徳

4 研究構想図



5 具体的な取り組み

（１） 主体的・対話的な授業づくり

① 野登小授業スタイルの実施（かめやま授業デザインスタンダードをもとに）

授業展開	内容	留意点
1 つかむ	めあての提示（青で囲む）	・「何をどのように学ぶのか」具体的なめあてを子どもと共有し、子どもの意欲を引き出し、課題解決の見通しを持たせる。
2 考える	一人で考える	・既習事項や具体物や資料などを手掛かりに、根拠を明確にして自分の考えをまとめさせる。
3 話し合い 深める	ペア・グループ・全員での交流	・目的を明確にし、子どもにも意識させて交流を行う。 ・板書で意見を整理し、対話が深まるよう、考えを教師がつなぐ。 ・意見の相違点・共通点に注目して話し合い、考えを深める。
4 まとめる	めあてに正対するまとめ（赤で囲む）	・学習したことを整理し、キーワードを使って子どもの言葉でまとめる。
5 ふり返る	めあてに正対するふり返り	・自己の変容や学び方をふりかえり学習内容の定着をはかる。 ・学習の過程は適切だったかを検討し、次時の課題に活かす。

② 特別の教科 道徳

- ・道徳的な問題を自分事として捉えさせて自己を見つめさせ、自己の生き方についての考えを深めさせる。
- ・内側発問（人物の心情や動機を想像する）、外側発問（自分ならどうするかを考える・登場人物を評価する）価値発問（主題にせまる）、ふり返り発問（自分はできているか考える）で、価値項目について深めさせる。
- ・児童の考えを比較したり、分類したりするための問い返し発問を行い、ねらい（気付かせたいこと）を焦点化し、価値項目について深めさせる。
- ・協働的な議論を通じて、自分と異なる考えにふれ、道徳的な問題に対して多面的・多角的に考えさせる。
- ・望ましいと思われることだけでなく、ありのままの自分の考えも表現できるように手立てを工夫する。

③ 生活・総合的な学習の時間

- ・カリキュラムを見直して、ねらいを明確にし、地域教材の効果的な活用を図り、ふるさと学習を充実させる。
- ・総合的な学習の時間に、人権学習や平和学習を位置づけ、系統的な学習の積み上げを図る。

④ ICTの活用

- ・自分の考えをまとめたり、全体の中で表現・共有したりするときにロイロノートを有効活用する。
- ・ZOOM等を利用して遠隔授業を行い、他校児童との交流により学習の幅を広げる。

（２） 学びの土台づくり

- ・補充学習「のびのびタイム」を毎月設定し、前年度までの学習を中心に復習し、基礎学力の定着を図る。
- ・「eライブラリ」を活用し、個別最適化された学習に取り組むことで、基礎学力の定着を図る。
- ・家庭学習の手引きを学級懇談会の場で配付し、家庭学習力の向上を図る。

（３） 安心して表現できる学校・学級づくり

① 特別活動の充実

- ・なかよし班（縦割り班）を使った異学年交流活動によって、人間関係を広げ、自己有用感を高める。
- ・集会や行事でのふりかえり発表や、下校集会でのスピーチ等、子どもが全体の中で表現する機会を確保する。

② 安心できる学級づくり

- ・各種アンケート等の実施・分析から必要な取り組みを全職員で共有し、違いを認め合う学級づくりを行う。
- ・職員会議の場で子どもの情報を共有したり解決策を検討したりして、全職員で子ども理解・支援を行う。
- ・「学習の約束8」を基に学習規律の指導を徹底し、安心して自分の考えを表現できる学習環境をつくる。